

NEXT フィッシングクラブ N田氏の志和のカブリ釣行記 (抜粋)

釣行日：2002年12月31日～2003年01月01日

殆ど瀬上がり完了してどこに上がろうか迷っていると、普段は殆ど瀬上がり出来ない沖のカブリがあいていることが分かり船頭に聞いてみると干潮が11時頃なので昼過ぎまではOKとの事。地獄から天国とはまさにこの事である。

瀬上がり後、撒き餌まで準備している従兄弟に遅れを取りながらも磯を観察する。西側に切り立った部分があり東に伸びた部分は磯が低く波がかぶっておりしばらくは無理のようである。西側の水道向きに3人で並んで釣り始める。

ここも昨日と同じく最初は餌もとられない状況で、引き潮にもかかわらず殆ど潮も動かず表層が風で引かれているだけである。仕掛けは潮も動いていないことから昨日と同じく浮きはIDRPROの00としてハリスは教訓を生かして2号、針はグレ針の6号とし針の30cm上に6号のかみつぶしを打った。今日は完全に沈めるのではなくグレのタナを探りながら張って釣る事とする。

しばらく仕掛けと撒き餌の同調に気を使いながら流しているとわずかな当たりがあるが送っても、あわせても針がかりせず非常に渋い状況。ただボイルのオキアミを噛み切った様子からすると小さな餌取りとは違いグレの予感。食い渋る魚のかかりを良くする為に針を細身で強度がありかかりが抜群の近頃お気に入りのGRAN ABL チヌスペシャル 1号に替えた。変えた1投目に竿先までの当たりがあり合わせて難なく上がってきたのは30cmほどの地グロ。時合いなのか今度は何度かの鋭い突っ込みを交わして取り込んだのは30cmの尾長。

この後、竿先までの当たりはあるがなかなか乗らず苦労していると竿1本半程のタナで良型がちらちらしているのが見えたので、撒き餌との同調に注意しながら棚を合わせると竿引きの当たり。たいして抵抗せずに浮いてきたのは良型の地グロで浮いた途端に抵抗しだしたので引きを楽しみながら取り込むと38cmだった。この1枚で散ったのか当たりも無くなったので休憩する。

缶コーヒーを飲みながら磯を見回すとだいぶ潮が引いて東側にも渡れそうなので先ず中間部分で北向きに竿を出してみる。裏側より磯を越えてきた潮のさらしと西側の水道側よりの潮が沖へ流れており非常にいい感じなので仕掛けを打ち返すが、だいぶ水深があり魚の雰囲気無し。今度は東の突端に渡り仕掛けを入れてみる。暫く撒き餌を打つがこちらは東に向かって北側は深く、南側は瀬が張り出しており丁度落ち込みを横から釣る格好になっている。かけても瀬に入られると取り込みが難しいなと思いながらも打ち返す。

暫くして当たりがあって上がってきたのはベラで撒き餌が利いてきたのか少しずつ餌もとられるようになる。ただ餌のとられ方は餌取りの様でハリスにも噛み後がついていたのでハリスを新しくして撒き餌も少なくなってきたので、作り変えようと多めに撒いてその中心に仕掛けを投入する。丁度沖向きの潮にうまく乗ったみたいで適度の張りを持たせながら流していると突然プールから指をはじかれるような当たりで慌ててしまう。

青物かなと思いつつベールを返すが竿を起こせないのではなれないレバーで糸を出して何とか竿を起こす。南側の瀬に入られると取れないので思いっきり新しいハリスを信用して起こすと何とかこちらを向いたので深みの方へと誘導する。手前へよせてから南の浅い方へと走ったのでサラシを利用して浮かしにかかる。ぎりぎり瀬を交わした所でサラシの中に見えたのは途中から重々しい引きに変わったのでマダイかと思っていたが大型のグレで尾長のように見えた。浮いてからは割りとおとなしかったが私が緊張してなかなかタモ入れ出来ず3回目でやっとタモに収めた。よく見ると体形はスラリとして尾ひれも大きく切れ込んでいるが地グロで、道具はそのままタモに収めたグレを落とさないように従兄弟のいる西側まで移動して逃げられないようにタモに収めたままで、ナイフで絞めてクーラーへと入れて検尺すると45cmあった。

その後は満足感と興奮して釣りにならず釣果の無いまま納竿しました。

竿	SHIMANO BBX XT-Z 47-53 1.5号
リール	DAIWA TOURNAMENT Z 2500LBC
道糸	DUEL X COMPO SUSPENDO 2号
ハリス	DAIWA タフロンZ 2、1.7、1.5号
針	がまかつ 寒グレ 5号
	GRAN ABL チヌスペシャル 1号